

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成 29年 10月 2日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 人文社会科学部 准教授	
氏 名 松本光太郎	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	平成29年 4月 1日 ～ 平成29年 9月 30日

①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)	<p>4月：米国アリゾナ大学のMatthias Mehl教授の研究室にて、客員研究員として、EAR (The Electronically Activated Recorder) という音声から人の行動を推定するユニークな間接的観察に関する研修を受け、検討を行った。</p> <p>5月：セミナーにて私の研究の報告と検討を行った。その後Mehl教授を中心に、間接的観察を用いた研究について構想を練った。</p> <p>6月：米国より帰国。帰国後は平成29年度中に公刊予定の著書『老いと外出』の資料整理と執筆に取りかかった。</p> <p>7月：資料整理と執筆を継続。九州大学の南博文教授の研究室にて、客員研究員として、執筆中の著書『老いと外出』について検討を行う。</p> <p>8月：資料整理と執筆を継続。東京フィールド研究検討会にて、執筆中の著書『老いと外出』について検討を行う。</p> <p>9月：資料整理と執筆を継続。九州大学の南博文教授の研究室にて、執筆中の著書『老いと外出』について検討を行う。</p>
②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)	<p>本サバティカル期間中の目的は2点であった。1点目は、Matthias Mehl教授のセミナーにてEARというユニークな間接的観察法を学び、また筆者の研究の検討を通して、筆者の公刊予定の著書『老いと外出』の執筆を進めることであった。Mehl教授のセミナーにてEARの研修や筆者自身の研究検討を行うだけでなく、毎週Mehl教授とディスカッションする時間を設けてもらうことで、予定していなかった共同研究のテーマも見つかった。アリゾナ大学にて得たことが現在進めている著書『老いと外出』の執筆に反映されている。2点目は、南博文教授のセミナーにて資料整理と執筆を進めている著書『老いと外出』の原稿を検討することであった。南博文教授をはじめとする研究室の方々から得た有益な意見を指南にしながら、通常の勤務では確保できない資料整理を集中して進めることができた。著書『老いと外出』は、今年度中に公刊する予定である。</p>